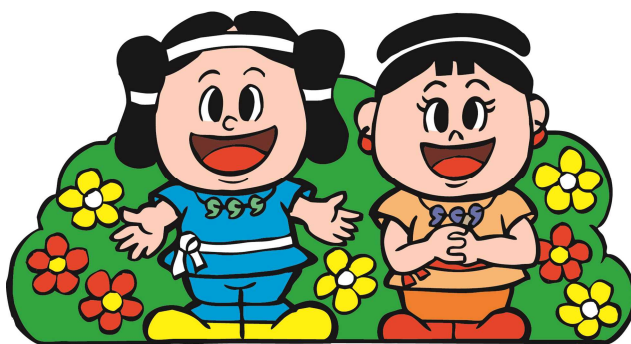


# 春日市下水道事業経営戦略 進捗状況報告書(令和4年度決算)



令和5年11月

春日市 都市整備部 下水道課



## 目次

1章 春日市下水道事業経営戦略の概要について	4
2章 令和4年度の実施内容	5
3章 経営指標の動向について	7
4章 経営の現状と課題について	11

【資料】春日市下水道事業の目的達成に向けたロードマップ



下水道マスコットキャラクター  
「スイスイ」

# 1章 春日市下水道事業経営戦略の概要について

## 1 春日市下水道事業経営戦略策定の背景について

下水道事業は、「快適な生活環境を維持し、豪雨による浸水被害を防ぐこと及び、水質を保全する」公共性・公益性の高い事業です。下水道は見えないところで私たちの安全・安心で、快適な生活を支えています。

### 下水道の役割

#### ・街を清潔にする

～下水道が整備されることで街が清潔に保たれ、ハエ・蚊等の害虫や悪臭の発生も防ぐことができます。

#### ・街を浸水から守る

～雨水を素早く排除し、私たちの暮らしを守ります。

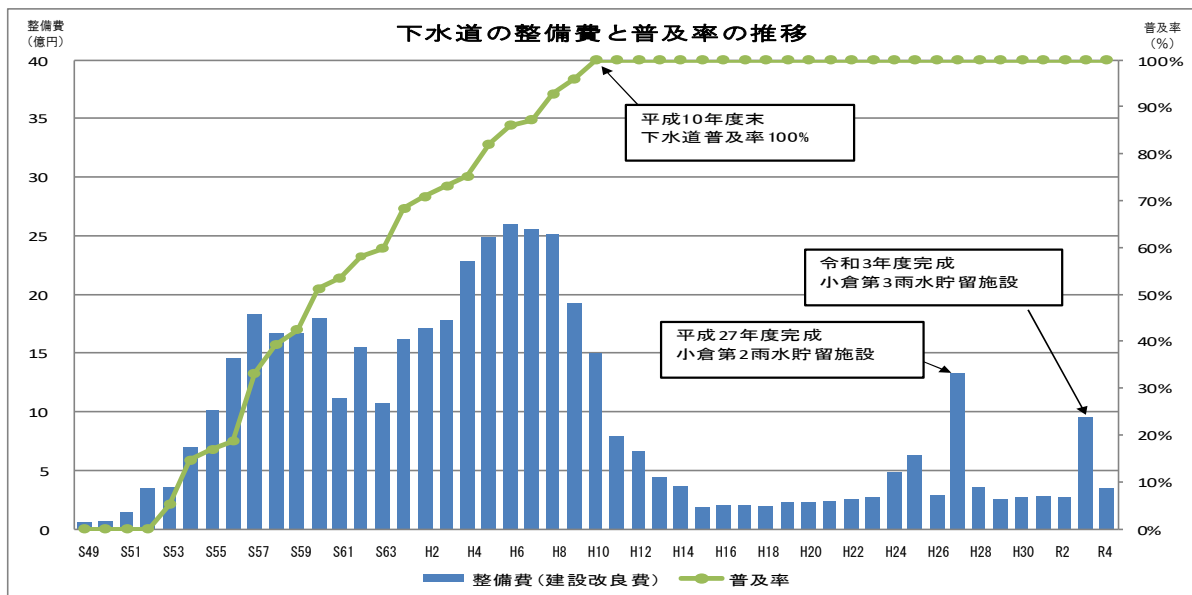
#### ・身近な環境を守る、エネルギー・資源を作る

～下水道管を通して流れてきた汚水は下水処理場に運ばれます。下水処理場で、さまざまな処理を行いきれいになった水は、消毒して川や海に戻します。また、処理の過程で発生したガスや污泥からエネルギー資源を創り出しています。

春日市では、昭和48年度から下水道整備をスタートし、平成10年度には下水道普及率が100%となりました。

今後、人口減少や近年の節水機器の普及、節水意識の高まりなどにより、下水道使用料収入の減少が想定される中、下水道施設(法定耐用年数50年)の更新時期を迎えることから、計画的な改築を実施する必要があります。

そこで、将来にわたり、安定的・持続的に下水道サービスを提供するため「春日市下水道事業経営戦略」(以下、「経営戦略」という。)を平成28年度に策定しました。

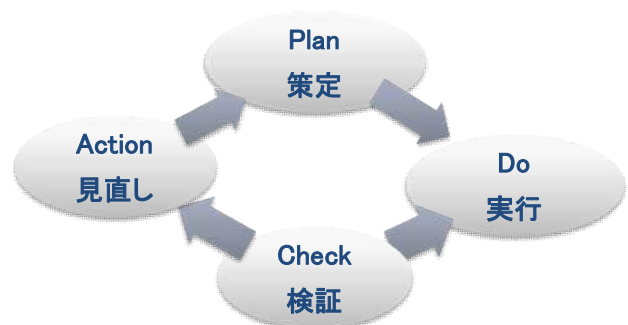


(「令和4年度 春日市下水道事業会計の決算について(概要版)」より)

※整備費(建設改良費)には、雨水整備費を含みます。

## 2 進捗管理

経営戦略の計画期間は、平成29年度～令和8年度です。経営戦略策定後は、下水道事業を取り巻く環境の変化に適切に対応し、事業を効率的に推進するため毎年進捗状況を管理しています。令和3年度には、中間見直しを行いました。



## 2章 令和4年度の取組内容

### 1 基本方針に基づく進捗状況の報告

経営戦略では、将来にわたり持続可能な下水道サービスを提供するため、「1.安全で快適な暮らしの実現」「2.経営基盤の強化」「3.下水道事業の「見える化」の推進」の、3つの経営の基本方針(以下、「基本方針」という。)を掲げ、事業運営を行っています。

今回は、令和4年度の取組について、基本方針に沿って進捗状況を報告します。

#### 1. 安全で快適な暮らしの実現

- ・ 下水道施設の老朽化による事故を未然に防ぐため、下水道ストックマネジメント計画に基づいた調査・診断・改築を実施します。
- ・ 豪雨による浸水被害を軽減させるため、雨水の貯留施設や雨水幹線などの整備を進めます。



#### 令和4年度の取組

- ・ 「ストックマネジメント計画」に基づき、汚水管路改築工事及び雨水管渠改築工事を行いました。これにより、下水道施設の計画的かつ効率的な改築更新事業が進捗しました。
- ・ 汚水枝線築造事業については、西鉄春日原駅周辺整備事業に伴う汚水枝線築造工事を行いました。これにより、公共下水道への接続や下水道施設の効率的な維持管理が進捗しました。
- ・ 浸水対策については、小倉第1雨水幹線改良工事の実施により、桜ヶ丘、日の出町及び須玖北地区の浸水被害の軽減が図られました。
- ・ 令和4年度末の雨水施設の整備率は、64.48%です。本経営戦略における計画期間の最終である令和8年度末の目標64.5%を達成するとともに、近年の豪雨災害に対応するため、引き続き計画的な浸水対策を実施します。

<令和4年度における浸水対策>

(写真) 小倉第1雨水幹線改良工事 (場所: 須玖北5丁目地内他)



(着工前)



(完了)

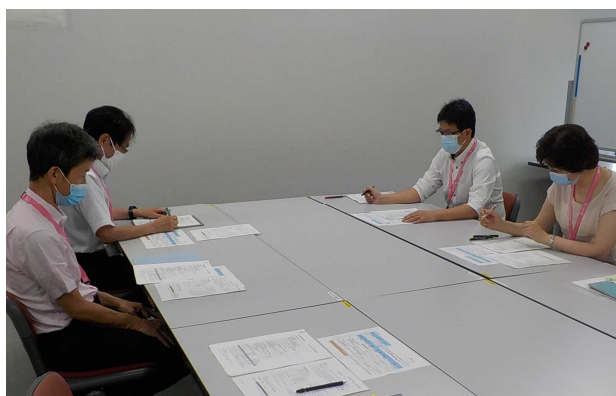
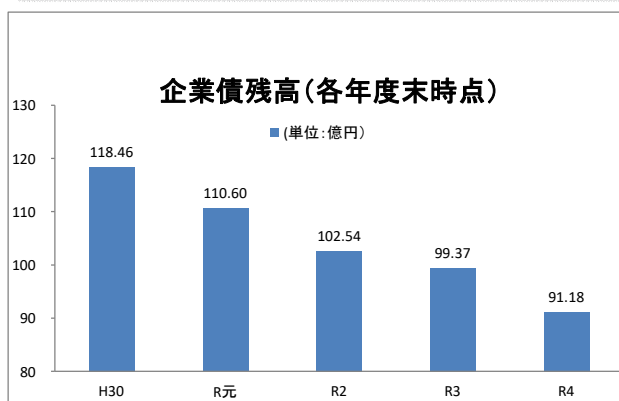


## 2. 経営基盤の強化

- ・ 将来世代へ負担を先送りしないため、引き続き、適正な経営を行い、着実に企業債残高の削減を進めるとともに、将来の経営環境の変化に対応していくため、自己資金の確保に努めます。
- ・ この経営戦略を推進していくため、職員研修等を通して、職員一人ひとりの能力向上と経営意識改革に取り組みます。

### 令和4年度の取組

- ・ 令和4年度末の企業債の残高は9,117,641,321円で、前年度末に比べて819,299,494円減となりました。
- ・ 水消化人口は、本市の人口減少に伴って、前年度に比べて178人減の111,945人となりました。年間有収水量は、新型コロナウイルス感染拡大防止の行動制限緩和による在宅時間の減少等の影響により、前年度に比べて182,433m<sup>3</sup>減の9,322,368m<sup>3</sup>となりました。その結果、下水道使用料は37,727,270円減の1,681,873,180円となりました。
- ・ 経常収支比率は、前年度に比べて、1.39ポイント減の122.46%となりましたが、本経営戦略で定める目標値の115%を上回っています。
- ・ 職員研修「下水道使用料の(賦課)徴収について」を2回開催し、職員の能力向上に取り組みました。



職員研修

## 3. 下水道事業の「見える化」の推進

- ・ 下水道事業の経営状況について、経営比較分析表などを活用し、数年間の比較や他の自治体との比較を行うことで、自らの経営の現状と課題を客観的に把握(=「見える化」)し、より健全で効率的な経営を目指します。
- ・ 市ウェブサイトなどを通して経営状況を開示することで、事業運営の透明性を確保し、誰からも分かりやすい「見える」下水道事業運営に努めます。

### 令和4年度の取組

- ・ 決算統計を活用し、筑紫地区自治体との比較などを行い、自らの経営の現状と課題を客観的に把握することに努めました。さらに、令和4年度の取組として、経営分析に春日市の経年比較を加えました。
- ・ 「令和3年度春日市下水道事業の決算について(概要版)」を市ウェブサイトに公表しました。
- ・ 「春日市下水道事業経営戦略進捗状況報告書(令和3年度決算)」を市ウェブサイトに公表しました。
- ・ 「令和3年度 経営比較分析表」を市ウェブサイトに公表しました。

### 3章 経営指標の動向について

経営戦略においては、春日市の年度ごとの推移をわかりやすく説明するために、経営比較分析表(※)を添付しています。

今回は、その経営比較分析表で設定している経営指標について、令和4年度の春日市の実績を反映させました。(令和3年度の経営比較分析表と同じ基準で算出しています。)

なお、経営指標については、3つの視点に基づき、全11項目について、報告します。(この経営戦略期間において、具体的な数値目標を設定している「経常収支比率」「流動比率」「水洗化率」については、その動向についても併せて報告します。)

(※)経営比較分析表とは…公営企業が自らの経営の現状や課題等を客観的に把握すること及び、経営状況の「見える化」の進展のため、平成26年度決算から策定。各公営企業の経営及び施設の状況を表す主要な経営指標とその分析で構成されている。例年、翌年度の2月頃総務省及び各団体のウェブサイトにて公表している。

#### 【経営指標】

視点	項目
1.経営の健全性	(1) 経常収支比率(%)
	(2) 累積欠損金比率(%)
	(3) 流動比率(%)
	(4) 企業債残高対事業規模比率(%)
2.経営の効率性	(5) 経費回収率(%)
	(6) 汚水処理原価(円)
	(7) 施設利用率(%)
	(8) 水洗化率(%)
3.老朽化の状況	(9) 有形固定資産減価償却率(%)
	(10) 管渠老朽化率(%)
	(11) 管渠改善率(%)

#### 【望ましい方向、評価について】

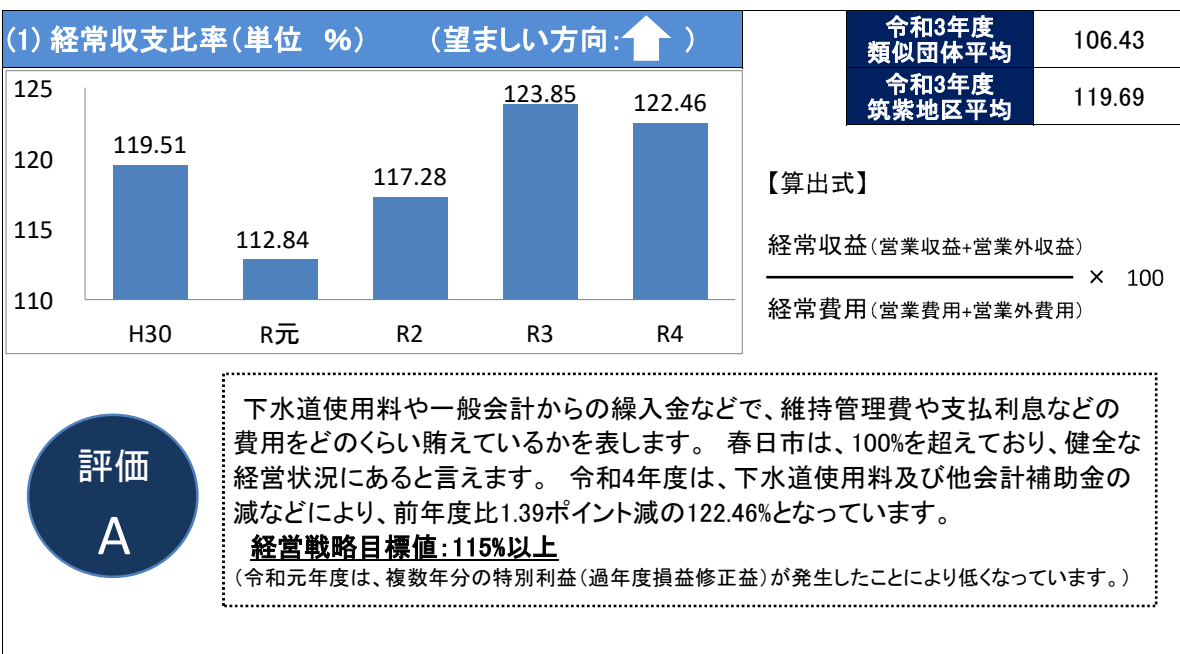
各経営指標の望ましい方向、評価については、次のとおりです。

(望ましい方向について) (評価について)

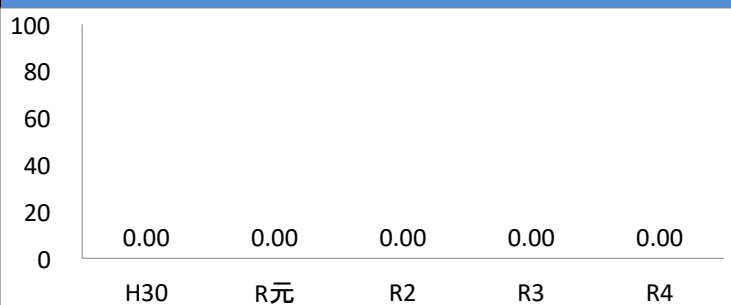
▲ : 増加が望ましい指標	A : 良好な状況であり、現状での課題は特に見当たらない。
▼ : 減少が望ましい指標	B : 現状では悪化していないが、今後、課題となる可能性がある。
	C : 悪化しているため、改善への取組を進める必要がある。

#### 1 経営の健全性

[類似団体区分: Ab(人口10万人以上, 75人~99人/ha (政令定都市除く)]



(2) 累積欠損金比率(単位 %) (望ましい方向: ↓)



令和3年度 類似団体平均	0.00
令和3年度 筑紫地区平均	0.00

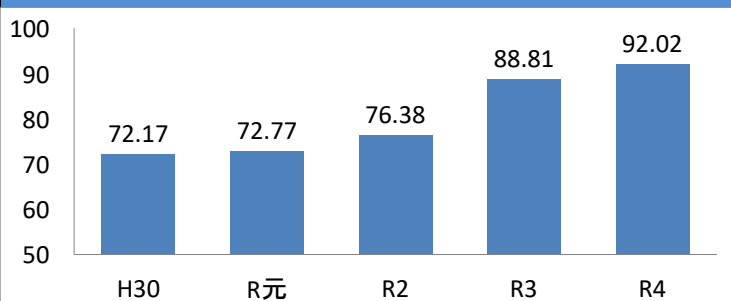
【算出式】

$$\frac{\text{当年度未処理欠損金}}{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}} \times 100$$

評価  
A

営業収益に対する累積欠損金(累積赤字)の割合を表します。  
春日市は、累積欠損金はありません。

(3) 流動比率(単位 %) (望ましい方向: ↑)



令和3年度 類似団体平均	88.42
令和3年度 筑紫地区平均	199.61

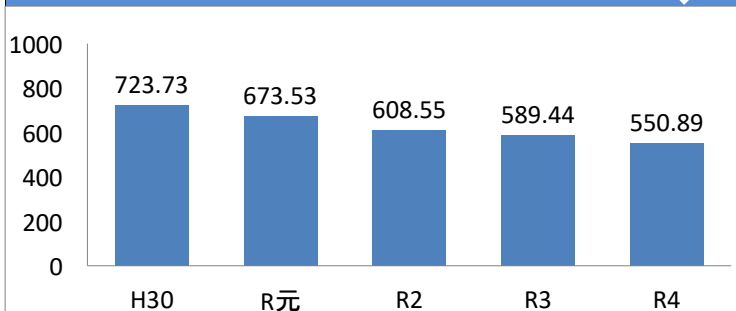
【算出式】

$$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$$

評価  
B

短期的な債務に対する支払能力を表します。  
春日市は100%を下回っていますが、年間の使用料収入などにより返済は可能です。企業債の返済が進み、改善傾向が続いています。  
**経営戦略目標値:100%以上(令和8年度末)**

(4) 企業債残高対事業規模比率(単位 %) (望ましい方向: ↓)



令和3年度 類似団体平均	544.61
令和3年度 筑紫地区平均	383.28

【算出式】

$$\frac{\text{企業債残高} - \text{一般会計負担額}}{\text{営業収益} - \text{受託工事収益} - \text{雨水処理負担金}} \times 100$$

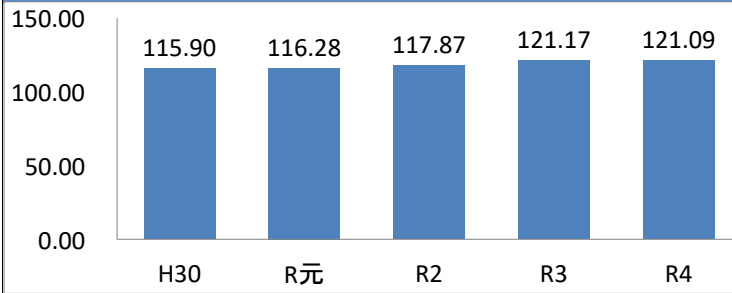
評価  
B

下水道使用料などの収入に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表します。  
春日市は類似団体の平均値と比較すると高い水準にありますが、企業債残高の減少に伴い、年々減少しています。



## 2 経営の効率性

### (5) 経費回収率(単位 %) (望ましい方向: ↑)



令和3年度 類似団体平均	103.76
令和3年度 筑紫地区平均	115.79

【算出式】

$$\frac{\text{下水道使用料}}{\text{汚水処理費用(公費負担分を除く)}} \times 100$$

評価

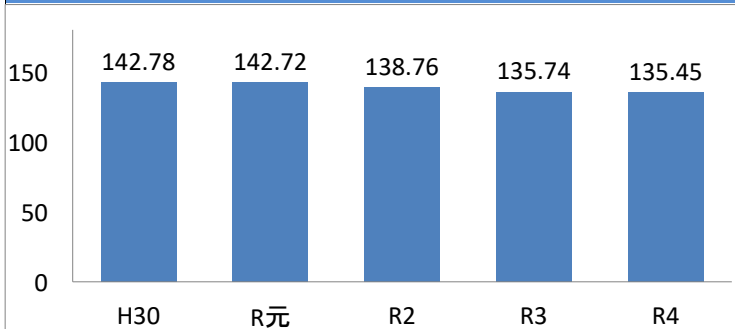
A

下水道使用料で回収すべき経費(汚水処理費)をどの程度賄えているかを表します。

春日市は100%を超えており適正な運営状態にあるといえます。

また、類似団体の平均値を上回り、良好な水準です。

### (6) 汚水処理原価(単位 円) (望ましい方向: ↓)



令和3年度 類似団体平均	111.18
令和3年度 筑紫地区平均	144.58

【算出式】

$$\frac{\text{汚水処理費用(公費負担分を除く)}}{\text{年間有収水量}}$$

評価

B

有収水量(下水道使用料の対象となる水量)1㎡当たりの汚水処理に要した費用を表します。

春日市は企業債残高の減少に伴う支払利息の減少などにより減少傾向にあります。類似団体の平均値と比較すると高い水準にあります。今後も適正な運営を行う必要があります。

### (7) 施設利用率(単位 %) (望ましい方向: ↑)



令和3年度 類似団体平均	67.13
令和3年度 筑紫地区平均	—

【算出式】

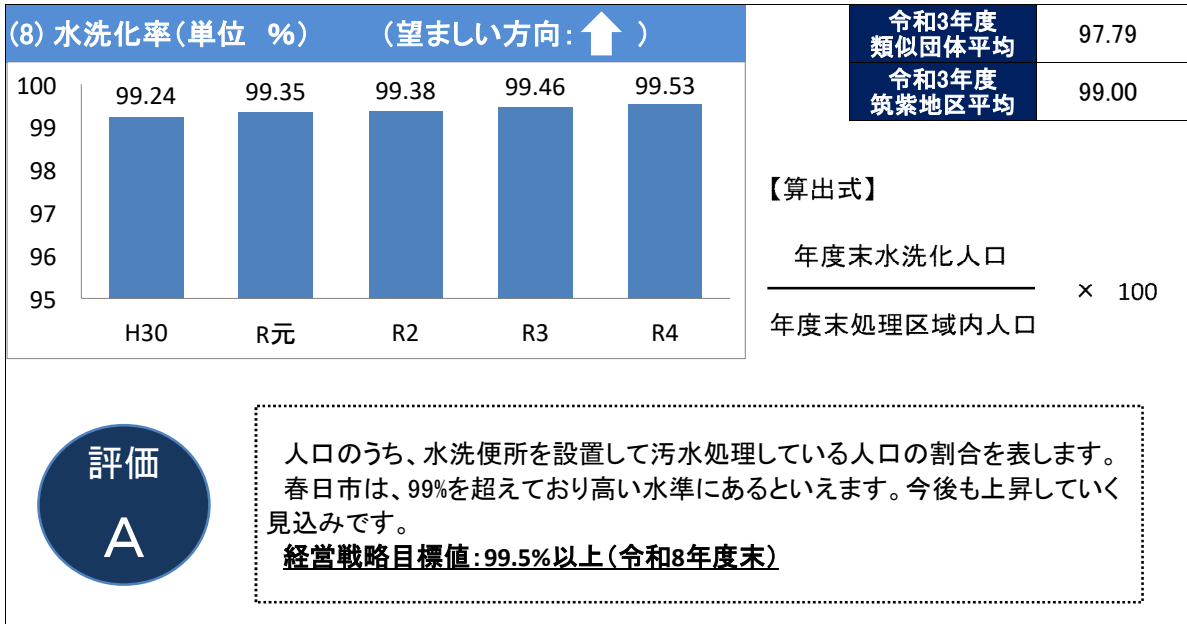
$$\frac{\text{晴天時一日平均処理水量}}{\text{晴天時現在処理能力}} \times 100$$

評価

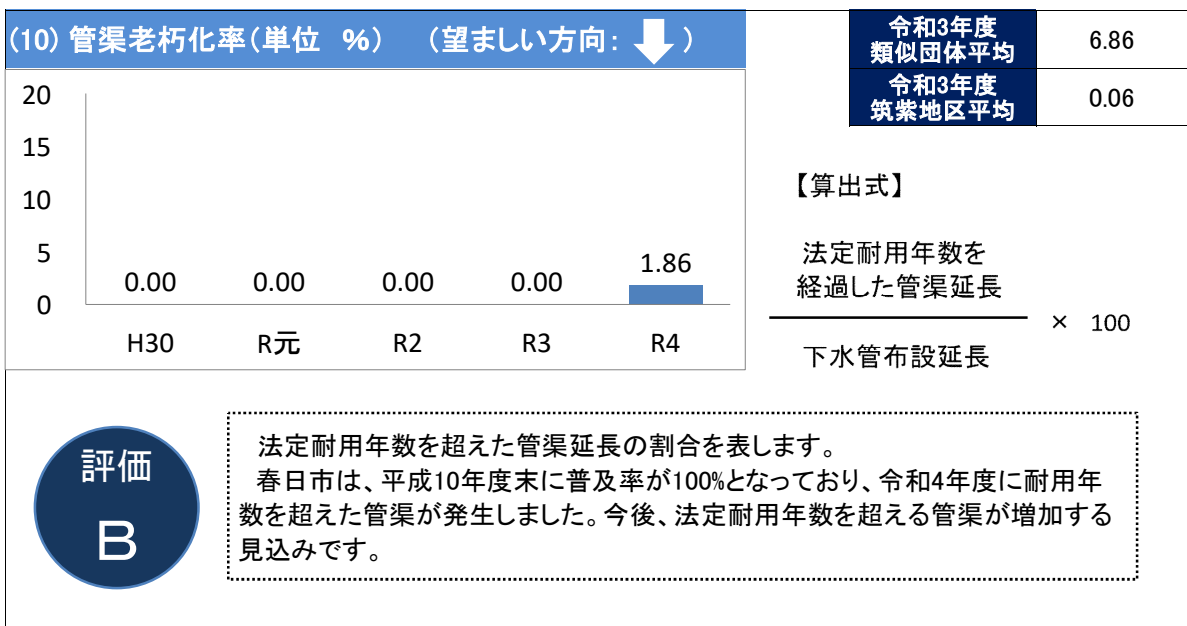
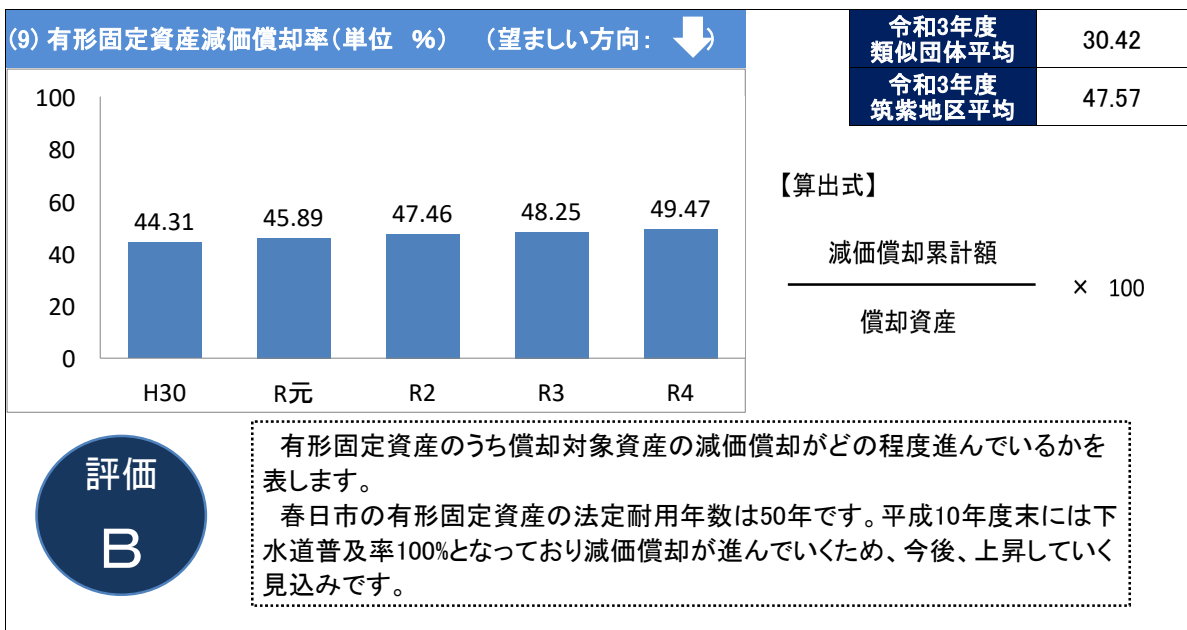
—

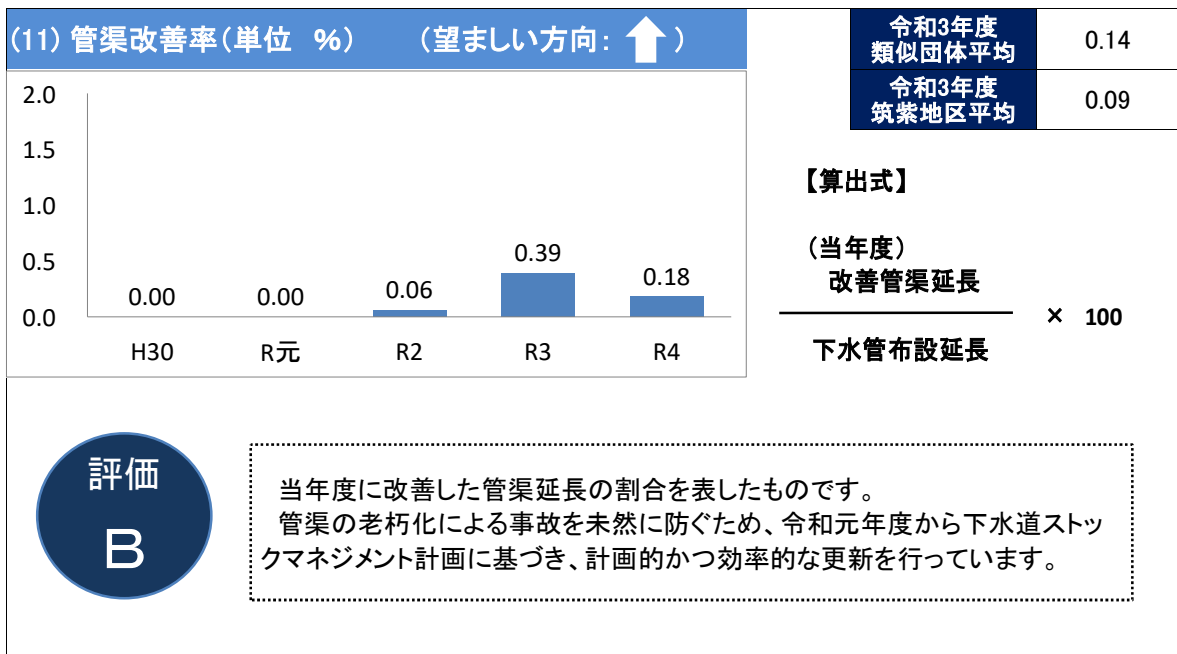
汚水の処理施設が一日に対応可能な処理能力に対する、一日平均処理水量の割合であり、施設の利用状況や適正規模を判断するものです。

春日市は、汚水の処理施設を所有していないため、当該値の表示はありません。



### 3 老朽化の状況





## 4章 経営の現状と課題について

### 1 経営指標の「3つの視点」による現状と課題

3章において示した経営指標の動向について、3つの視点ごとに現状と課題を整理します。

「経営の健全性」を示す4つの項目については、おおむね望ましい方向へ推移しています。「企業債残高対事業規模比率」は類似団体の平均値と比較すると高い水準にありますが、着実に企業債残高が減少しており、改善が進んでいます。今後も企業債残高は減少する見込みです。また、「経常収支比率」は、健全経営の水準とされる100%及び経営戦略目標値の115%を上回っています。よって、春日市下水道事業は健全な経営状態であるといえます。

「経営の効率性」を示す4つの項目については、おおむね望ましい方向へ推移しています。「経費回収率」は継続して100%を超えており、適正な運営状態であるといえます。

「老朽化の状況」を示す3つの項目のうち、「有形固定資産減価償却率」「管渠老朽化率」は、老朽化の進行に伴い、上昇していく見込みです。老朽化による事故を未然に防ぐため、下水道ストックマネジメント計画に基づき計画的かつ効率的な施設の更新を行っていきます。

### 2 総括

以上の分析の結果、春日市の下水道事業の経営状態は、引き続き健全であると判断できます。ただし、下水道使用料の増加傾向(新型コロナウイルス感染拡大防止のための在宅時間増などによるもの)が規制緩和によって減少に転じ、また、高い水洗化率、人口減少の見込みや節水意識の高まりなどにより、今後の増収は見込めない状況にあります。一方、老朽化に伴う管渠更新や浸水対策等に係る費用の増加が見込まれます。また、今後は、物価高の影響による費用の増加も見込まれ、下水道事業をとりまく環境は更に厳しさを増すと予想されます。そのため、収入面では適正な使用料収入を確保し、支出面では下水道ストックマネジメント計画に基づく計画的な管渠の更新を行うことにより改築費用の平準化を図りつつ、企業債残高を減らすなどの経費の削減に努め、適正な経営を継続する必要があります。

【資料】

令和5年9月

《春日市下水道事業の目的》

将来にわたる持続可能な下水道サービスの提供 ※『春日市下水道経営戦略（中間見直し）』P10

【春日市下水道事業の目的達成に向けたロードマップ】

目標：健全かつ安定的な下水道事業を行う

大項目	中項目	具体的な取組み	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	
プラン	経営目標	経費回収率目標値				100%以上					100%以上					100%以上	
		経常収支比率目標値				115%					115%						110%
		経営目標の検証・見直し			○						○					○	○
プラン	経営戦略	経営戦略の策定・改定				○					○						○
		経営戦略(計画期間)				○					○						○
		経営戦略の検証・見直し				○					○						○
ヒト	長期財政計画	長期財政計画の改定				↑					↑					↑	
		職員研修の実施															↑
		他団体との情報共有															↑
モノ	施設整備	業務効率向上															↑
		共同化・広域化の検討															↑
		雨水施設の整備															↑
カネ	施設改築	ストックマネジメント計画に基づく施設の改修															↑
		適正な使用料水準															↑
		使用料水準の見直し															↑
カネ	使用料の確保	使用料の検討															↑
		使用料改定※必要時のみ															○
		水洗化の促進															↑
カネ	使用料の確保	水洗化の促進															↑
		取納率向上の取組(滞納整理の推進等)															↑